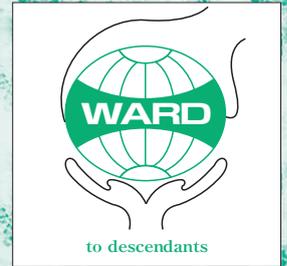


WARD

ウオード

World Association of Representatives for Descendants

世界子孫代理人会



子孫が穏やかに暮らせる地球を THE EARTH WHERE DESCENDANTS CAN LIVE CALMLY

子孫が他の生物と一緒にわがプラネットで共存して暮せることは地球上のほとんどの人々の願いである。しかし、持続可能な世界にするため、脱炭素社会、巨大災害をどうしたら少なくすることができるか、森林を存続させる試案は個別的に行われているが、実行は遅々として進んでいない。今回パリ協定(COP21)が発効し、世界が歴史的な合意を実現するため気候変動問題について考えるというテーマが出された。全世界が賛同する体制に入ったことは一つの前進であるが、わが国は先進国の中では対策が他国に対して遅れている。

我々は全国民がパリ協定の内容を理解し、温暖化防止を政府に圧力をかけて遂行させなければならない。多くの国で経済研究の分野では排出ゼロという方策も論じられているが、それが本当に実行出来るかどうかはまだ、わからないレベルである。

今までにも何回も、もはや議論している時期はるか前に終わり、実行する時期にきていることを話したが、多くの人々から、“周りを見ると環境問題など何も考えていない人達が多い。これに対してどう対応するのか”という質問がなされた。ここがわが国民の全体の弱点である。一方、世界の人口からなる中国では相変わらず国家高揚のため経済成長にまい進し、石炭を使った発電を行いスモッグに悩まされているし、全国でビルの建築バブルがエスカレートしている。

一方国土が広く、焼却による大気汚染への懸念が強いアメリカでは年2億5,400万トンのごみの放棄のうち、埋め立てなどが52.8%と多かったが、土地の限界が見え始め、エネルギー回収を伴う焼却処分への切り替えが12.9%、リサイクル、生ゴミ堆肥化などによりゴミゼロを目指し始めた。このように全世界で温暖化防止の行動は始まっている。

温暖化の影響で干ばつ・大洪水、大地震などが全世界で頻繁に起こり、毎日のように世界のどこかで被災している。これを妨げるためには地球規模で2℃以内に目標達成を可能にするため2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を少なくとも現在の半分または零に減らす必要があると云うデータが出されている。この達成に世界の16の著名な国際組織の専門家が世界のエネルギー、土地、食糧、気候のシステムモデル「グローバル・カルキュレーター」を開発し、このツールを使って人々が自分で試すことができる。日本語版は地球環境戦略研究機関より翻訳されWEBサイトに公表されている。

ドイツでは1990年代初めまでは日本と同様化石燃料と原子力が中心であった。しかし2014年には1990年比で温室効果ガス27%に削減し、電力消費に占める再生エネルギー比率を32.5%に増やし、最終エネルギー消費に占める比率を13.7%にしている。そのエネルギー転換の中核が脱原発だ。そして2000年には社民党と緑の党の連立政権下で、2023年



世界で最初に水没する国「ツバル」

ニュージーランドでは毎年ツバルの人を数十人ずつ移住させるプロジェクトを進めています

までにすべての原子力発電所の廃止が決定された。その後メルケル首相は2010年に、既存原発の稼働期間を平均12年延長する提案を行った。これが野党や市民団体の強力な反対運動を呼び起こし、さらに2011年3月の福島原発事故後に反原発世論の高まりを受け2022年までに段階的に原発を停止する政策転向を余儀なくされた。

このように原子力と化石燃料から脱却し「再生可能エネルギー経済」への移行を目指す「エネルギー転換政策」の推進で、気候変動防止、エネルギー輸入削減と安全保障、原子力発電リスク削減、地域経済強化の実現に成果を上げている。

それに対して、わが国では過去から現在まで政府の政策を国民運動によって方向転換させた経験がない。現在でも福島原発の事故処理に膨大な予算が掛かり、それを税金で賄おうとしているし、現在の政府、経済界が休止中の原発を再稼働する方向で動いている。現に九州電力川内原発は運転再開されることに決まり、国民の意向は全く反映されていない。

わが国も国民運動を盛り上げ、政府に政策転換を行うことを要求しなければならない時期にきている。WARDは環境団体の結集を促し、ドイツのように国民運動で原発廃止、クリーンエネルギーを促進させなければならない。また、それには、その負担を直接負わねばならない若い世代の参加を増やすための方策を考え、実行に移さなければならない。前回の選挙でも若者の投票率は低かったが、18歳での選挙権も実施されている現在、若者に原発反対の機運をどう持つてもらうかも考えなければならない。

わが国でも市民団体を結集し反対運動を呼び起こし、原発廃止に持ち込めないのだろうか。地球温暖化を阻止する市民団体が連携して若者の参加を呼びかけ若者達とその直近の子ども達が生きていける地球にしたいものである。

若者達よ、緑の地球を子孫に残す運動に一人でも多く参加して欲しい。あなた方の地球環境を良くしようとする力が無ければ地球環境は良くなるらないのです。

WARD副会長・獨協医科大学名誉教授 永井伸一

SHINITI NAGAI

私の子孫を代理してやっていること WHAT I'M DOING ON BEHALF OF OUR DESCENDANTS

WARDは、地球の資源と、健康な生活が営める環境を、世代間で平等に分ち合う事が出来るよう、子孫に代わって活動しています。末尾の「子孫代理人会と会員の活動イメージ図」をご覧ください。会員の活動は、人それぞれで、日常のちょっとしたエネルギーの節約から、NGO組織を作ったり、参加したりして、子孫を代理する活動をして居られる方もいます。創立25周年を機に、会員がどのような事をされているか、ご紹介いただいて、私たちの活動を共有したいと思い、寄稿して頂きました。

子供や孫の未来を気にしながら、環境を悪くしないよう出来ることをやるようにしています。簡素生活を心がけ、物を少なくするようにしています。環境は悪くなるばかりで、焼け石に水ですが、諦めたら終わりだと思ってやっています。そんな私に原発の再稼働はとんでもないことです。黙っていたら認めることになると思います、いたたまれずデモに参加しています。私の様に一人で参加している方も多く、思いを共有できて少し気が晴れます。

飯田敏夫

私共が目下WARD的活動として行っているのは、愛知県にある養蜂博物館です。内外の関係資料2000点を展示し、ミツバチ200群を飼育しています。ここでは、ミツバチ見学、蜜搾り体験、ロウソクづくりなどをしながら、ミツバチの習性や自然の中での役割などをお伝えしています。スタートしてからはや20年、総面積5ヘクタールに蜜源樹を、毎年植え続けています。ミツバチが元気な世界は、人類にとっても幸せな世界であると信じて、続けて行きます。

井上凱夫



ミツバチ見学

WARDを通し私生活の中でも無駄なエネルギーの消費の削減や、環境汚染を防ぐために、まずは自分の周りで小さなこと、確実にできることから取り組むようにしていきたいです。一人ひとりが意識して取り組むことが大切だと思うので、私もWARDの参加者として、率先して周囲にアナウンスしていきたいと思います。そのためにはWARDの活動や自分が行っていることをSNSなどで広めていき特に若い人への呼びかけに力を入れていきたいと思います。

栗本雄介

自然と共に生きるように努めています。環境が悪くなったのは人間が自然に逆らって生きてきた結果だと思っているからです。わたしには旧暦のカレンダーが欠かせません。日の出入り、月の満ち欠け、潮の満ち引きなど自然の情報が沢山あって役に立ちます。基本は日の出入りに合わせた早寝早起きです。環境に優しい生き方だと信じています。自然がよみがえる緑化活動などにも関わっています。

児玉宏

最近は怠けていまして、ひとさまに語るような立派な事はありません。日々出来る事をなるべく“もったいない”精神で実行することぐらいです。古くなったパンツのゴムを弁当箱の帯にしたり、ペットボトルをさまざまな容器に転用したり、古い靴下をワレモノの防具にしたり・・・と。そんなことで、ほんのちよっとだけのもったいないライフです。狂ったスピードと無駄使いの世間さまに対して、そうスローで、金を使わず、廃棄物をなるべく出さずに生活すること。たったそれだけでもと、小さな自己満足の日々です。

斎藤光弘

私は2011年より「渋谷みつばちプロジェクト」の活動を開始し、現在渋谷区のコミュニティーFM「渋谷のラジオ」の設立発起人となり、木曜日総合司会を務め、地球温暖化やヒートアイランド改善に向けて「渋谷エコの部」という番組等を創り、市民、企業、行政が本音で楽しくつながれるメディアを目指して、日頃の環境活動と合わせて皆様と次世代にステキな環境を残せるよう微力ながら頑張っております。

佐藤勝

今のままの人間中心の考え方では地球生態系は崩壊し、子孫を残すことはできず、人間自ら自然の生態系を復元し、生物の多様性や地域特性を維持することのシンボルが「ビオトープ」にあると主張してきました。2016年度からは身近な自然を体感できる環境創造の場を一緒になって考え、作り上げていくことを生徒が主体になって近隣の小学校の校長先生、環境担当の先生に紹介するビオトープファシリテーター活動を始めました。

塩瀬治

断捨離かなと思っています。いろいろやってみて解放されたようです。物にエネルギーを取られていたことも知りました。クルマも止めました。公共の乗り物を使い、近間は歩くようにしています。お蔭で体調もよく、お金もかかりません。シンプルな生活で、環境への負荷も少なくなったと思っていますが、何よりも自分のためになっています。

島田明夫

具体的には、月々の定例会に参加させて頂いて、他の会員の意見を拝聴し、自分の行動規範を構築するだけですが、子供達に子孫代理人会の目的に関する命題を与えて俳句を作らせ良い作品は表彰する企画を実施するのはどうでしょうか。都府県別対抗戦形式をとれば盛り上がるのではないのでしょうか。

鈴木健司

私がWARDに参加させていただいて20有余年になります。これまでWARD定例会に参加し、環境問題に取り組んでいる会員の方々と意見交換をしながら日常的にはリデュース、リユース、リサイクルを心がけ、機会があれば環境NPOの催事にも顔を出し常に意識を高められるようにしています。仕事の面から言えば教育旅行専門の会社を営んでいる関係上、小学校、中学校、高等学校の海外研修のプログラムを作成する際、英語の習得、異文化交流の中に必ず環境教育というコンテンツを入れ込んで、今の中高生から環境に関して高い意識を持ってもらい、将来に向けて実践してもらうための動機付けを行っています。社会を動かすためには時間がかかるとは思いますが、将来を担う小学校から中高校生にかけての環境教育が不可欠と感じています。 田中国智

森林メンテナンスや、多摩川ゴミ拾い等に参加し、12年が経ちました。何もしないよりも何かやったほうがいいと思い、参加しておりますが、未だ何も成し得ていないので、今年は仲間と一緒に何か積極的に事業を成せればと思います。まずは、環境に対して少しでも興味のある同年代の仲間を集い強制だと思われないように、クラブ活動のような気持ちで取り組めるようなNPO法人を作っていければと思います。継続は力なりを行動にうつせればと思います。 田中国之

環境を少しでも良くしようと小さいことを積み重ねていますが、イラクやシリアの瓦礫やフクシマの住めなくなった大地の映像を見ると空しくなり、壊すことを止めさせられないかと思えます。思っているだけでは何も変わらないので、署名をしたり、デモに出かけて意思表示をしたり、反対活動をしている団体に献金したりしています。 塚本良夫

昨年よりWARDの活動に参加しています。子孫のために地球環境を保全するWARDの理念に深い感銘を受けました。WARDのおかげで、地球の現状がいかに危険な状態な

のかを認識することが出来ました。この状況下で、自分には何が可能なのか、よく考え実践していきたいと思っております。現状は、WARDの活動にもっと大勢の人々に参加してもらえよう、周囲の人間にWARDを紹介しています。今後はもっと様々な活動に参加出来ればとれます。 平田洋一

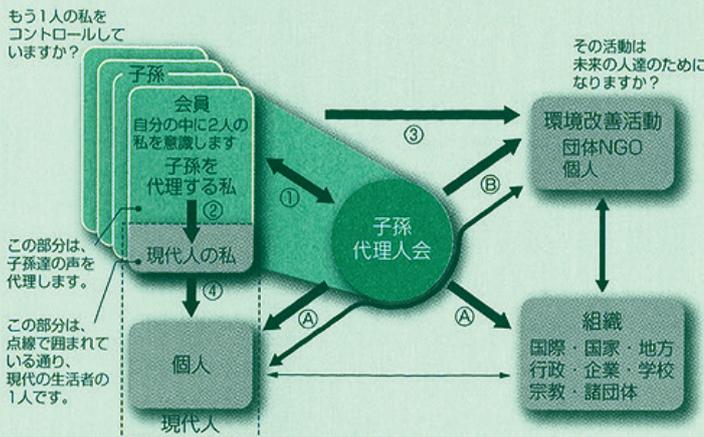
怠け者で、目先の事に追われていますが、WARDのお蔭で、未来を意識するようになり、子孫への倫理についても考えるようになりました。何かしないといけない事に関わり、してはいけない事から離れるようにしています。わたしは子孫代理人だと思つと、いいプレッシャーになります。続けることが大切と思っているので、ボチボチやります。 本間輝夫

玉川大学奉職中に渡辺英男会長に誘われて、WARDの考え方に共鳴し、お手伝いを始めて以来のつながりです。ミツバチとのつきあいから、環境生物学を通して地球環境に思いをいたして、地球上の平和を念頭に色々な問題を考えています。世界連邦運動協会や、日本ユネスコ協会、東京YMCAなどにも所属して(不十分ながら)活動をしています。

松香光夫

3.11後、福島の人から、原発の電気を使っていた東京にも責任があると言われ、考えさせられました。原発に反対でも、使わざるを得ないシクミになっていたわけですが、自由化され、生活クラブ生協が、脱原発・自然エネルギー社会づくりにむけて、原発ゼロの電気を供給することになりましたので、直ぐに切り替えました。毎月電気料金の5%を「生活クラブ自然エネルギー基金」に寄付していますが、それを加えても、東京電力よりかなり安いのに驚いています。太陽光・風力などの電源構成の実績を毎月電気料金明細書で明らかにしているので、それを見ながら、節電に努めたこともあると思っています。 渡辺英男

WARDと会員の活動イメージ



WARDは、

- ① 現代人とその組織に対して、
 - 1) 子孫の存在をアピールし、子孫に代わって、地球の貯蓄資源と生産基盤並びに健全な生活環境を享受する権利を主張し、分配を要求します。
 - 2) 現代人側に、子孫との分配問題を受けて立つ機関を作る働きかけます。
 - 3) 子孫の立場で地球環境や資源を調べて問題を提起し、解決方法を提示し、改善を迫り、環境と資源の消費に枠をはめるよう働きかけます。
 - 4) 啓蒙活動を行い、子孫との分配思想を醸成します。
- ② 環境改善活動をしている組織(環境NGO)や個人に対して、子孫まで考慮して活動するよう働きかけます。
- ③ 同時に、未来社会に寄与している団体や個人に感謝状を贈り、活動を鼓舞します。

WARD会員は、

- ① WARDを資金面(会費など)で支え、会の活動に参加します。
- ② 子孫を代理する私が、現代人の私と向き合い、子孫の視点で、自分の行動をチェクし、環境への負荷を減らし、改善に努め、未来を損ねる事がないようにします。
- ③ 様々な環境改善活動に参加して、その活動が子孫のためになるよう働きかけます。
- ④ 周囲の人達を啓蒙し、子孫を代理する仲間を増やします。



“自国第一”の先に未来はない “OUR COUNTRY FIRST” HAS NO FUTURE

このところ、「自国第一」の風潮が高まっている。欧州連合では、英国が離脱を決め、他の国も排外主義的な政党が勢力を伸ばしている。米国では“アメリカ・ファースト”を唱えるトランプ大統領が誕生し、就任早々、メキシコとの国境に壁をつくる、イスラム7か国からの入国や難民の入国を一時禁止する・・・等と、大統領令を連発し、世界を騒がしている。



3141kmに及ぶアメリカ・メキシコ国境

地球環境が悪化し、グローバル化が進み、世界が急速に変化して、様々な国際問題が起きている時、絶対的主権を持った190余国が、自国第一で動いたら、どうなるだろうか。問題の解決どころか、争いは増え、「持続不能」にしてしまう。気候変動を抑えるために世界が合意した「パリ協定」や国連で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)は形骸化し、やがて地球は人の住めない惑星になってしまう。

生命圏を持続するには、地球大で考える「地球の物差し」と、未来に及ぶ時間をベースに判断する「時間の物差し」が不可欠だが、自国優先を唱える政治家や支持者達は、専ら、地域(自国)と時点(今)で動いている。難民・移民・出稼ぎ者・企業流出等から波及する低賃金・失職・生活苦、既成政党や職業政治家への不信・不満に依って、自国優先の旗を振り、票を伸ばしている。

この傾向は強まるだろう。世界人口は増加し、地球の扶養力は低下するから、貧困、病死、餓死、争いは増え、内向きになる人が多くなる。自分の事、今の事で精いっぱい。感情が知性を抑え、理性を働かす余裕はない。政治家は、「分かち合い」の大切さを説かず、目先の事でお茶を濁し、モノ・カネの太鼓を叩く。結果、未来は次々と失われていく。

どうしたら、持続可能にして、未来と共有できるだろうか。これは正しく世代間平等問題であるから、解決へ向うには、未来を奪われ、苛酷な環境の中で生きなければならない若い世代が、自分たちの未来を保障する為に、被害者として立ち上がり、未来と共有する「縦の平等 (Vertical equality)」運動を地球大で展開する必要があると考える。子孫の代わりに活動している世界子孫代理人会 (WARD) と共に、「残せ」「我々の未来を奪うな」と訴え、解決策を提示して、実施するよう要請する。一方、加害者でもあるから、その責務を人一倍果たす。そのような仲間を増やしたい。

1人一人が変われば世の中は変えられる。地球は1つ、世界は1つ、「地球人」として連帯し、未来に希望を持てる世の中をしたい。WARD会長 渡辺英男 HIDEO WATANABE



神代植物公園

お知らせ NOTICE

WARD総会開催 THE 26th WARD GENERAL MEETING

5月7日(日)、第26回WARD総会を下記の通り開催します。会場の神代植物公園には、約4800種類の樹木があり、バラ園、ツツジ園など30ブロックに分かれていて、景色を眺めながら植物の知識が得られるようになっています。又、隣には1300年の歴史を持つ名刹深大寺があり、門前で名物の深大寺そばが楽しめます。花と緑の中で、植物多様性などについて一緒に考えてみませんか。皆さまの参加をお待ちしています。尚、準備の都合上、参加頂ける方は、4月14日(金)迄、はがき又はFAXでWARD事務局(下記)へ申込下さい。総会の参加費は無料ですが、入園料500円が必要です。

記

- *日 時：5月7日 13:30~15:30
- *会 場：神代植物公園植物会館2F (正門を入れて直ぐ左)
東京都調布市深大寺元町5-31-10
- *京王線調布駅から小田急バス吉祥寺駅又は三鷹駅行き「神代植物公園前」下車
- *JR 中央線三鷹駅又は吉祥寺駅から小田急バス調布駅北口又は深大寺行き「神代植物公園前」下車
- *車では、中央自動車道調布インターから約5分、有料駐車場(720台)、臨時駐車場有
- *プログラム：13:20 開場
13:30 開会 総会議事、感謝状贈呈
14:00 講演「隼より始めよ一足元から緑を増やそう」
永井伸一独協医大名誉教授
情報交換、スローガン唱和
15:30 閉会
- *当日の緊急連絡先 090-4754-6706 & 090-9340-2939

◆ 会費納入のお願い MEMBERSHIP FEES ◆

2017年度会費納入の郵便振替用紙を同封させて頂きました。正会員の会費は1口(千円)以上、賛助会員の会費は1口1万円です。納入は随意ですが、ご都合宜ければお願い致します。尚、領収は振込時の領収証で代えさせて頂きます。

会費納入方法 次の口座へお振り込み願います

- A. 銀行振り込み みずほ銀行自由ヶ丘支店普通2286766
- B. 郵便振替 00100-3-659238 加入者名WARD

WARD 49号(2017年3月20日発行)

発行人 渡辺英男 定価150円

編集人 加藤正彦

WARD事務局 〒152-0003 東京都目黒区碑文谷5-4-21

TEL 03-5721-1992 FAX 03-5721-8383

http://www.ward-ngo.com